

環境レポート 2009 大津地区実績

このレポートはコープしが「スパイラルレポート2009」の作成資料から大津市にある事業所の環境実績をまとめたものです。

コープしが「スパイラルレポート2009」は、コープしがのホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

コープしがホームページ→ <http://www.pak2.com/>

2009年度環境レポート	目次
1. 事業所概要	
2. コープしが環境マネジメント方針	
3. コープしがの環境への取り組み	
4. 大津地区事業所の環境実績	

2010年
生活協同組合コープしが

■ 2009年度事業所概要

（事務所）

生協会館	大津市竜が丘1-1
福祉ネットセンター	大津市真野5丁目33-25

（店 舗）

コープぜぜ	大津市竜が丘1-1
ミニコープローズタウン	大津市朝日1丁目15-1
ミニコープ西大津	大津市柳川2丁目11-25
ミニコープ瀬田	大津市一里山2丁目1-23

（共同購入センター）

北大津センター	大津市真野5丁目33-25
中央大津センター	大津市国分2丁目226-22

（共同購入商品受け渡し所）

日吉台ステーション	大津市日吉台2丁目10-9
富士見台ステーション	大津市富士見台26-75

コープしが環境マネジメント方針

【事業運営理念】

世界的な気候変動が顕在化する中、その影響は私たちの琵琶湖にも確実に現れつつあります。

コープしがは、事業活動を媒介として行う環境対策を様々な角度から「科学的視点」を持って追求し、着実に実践します。

組合員・取引先と協力して、持続可能な生産と消費を橋渡しすることを事業運営の重要課題とします。

- 1) ISO14001の要求事項に適合した環境マネジメントシステムを維持し、継続的に改善します。
- 2) 関連する法規制・利害関係者との協定事項及び組織が認めたその他の要求事項を順守します。
- 3) 事業活動及び商品・サービスの供給において、環境に与える影響を考慮し、事業者としての役割と責任を果たすと共に、様々な団体との連携・協力を強め、資源・エネルギーの循環を妨げない環境調和型社会の実現に向けて活動をすすめます。

【行動指針】

- (1) コープしがが取り扱う商品とサービスの環境影響の把握に努め、環境への配慮を徹底します。
- (2) 廃棄物の削減、省資源、省エネルギー、資源リサイクルの仕組みを維持し、自然の物質・エネルギーサイクルと調和した循環社会を目指します。
- (3) 排気ガスによる大気汚染や、限られた地下資源の浪費を防ぐため、アイドリングストップ運動に取り組み、環境負荷がより少ない車両の導入をはかります。
- (4) 琵琶湖が中心にある湖国しがの自然環境と人々の暮らしを守るエコライフの取り組みを、地域の人たちと協力しあう組合員の「暮らしの見直し活動」を通して推進します。
- (5) 事業活動に伴うCO₂の排出抑制を全国的に提案する日本生活協同組合連合会の呼びかけに応じて、コープしがの「自主行動計画」を策定し、限りある地下資源の浪費を抑制する環境活動の指標とします。

【環境マネジメントシステムの継続的改善】

- (1) 担当役員を責任者とする環境マネジメントシステムを確立し、事業活動に伴う環境負荷の低減に向けたシステムの見直しと改善を、計画的、組織的、継続的に行います。
- (2) 環境マネジメントシステムをコープしがの社会的責任経営の柱として、コープしがの理念や方針を職員に周知徹底し、職員の環境意識向上に努めるとともに、日常の業務を通じて環境保全に取り組みます。
- (3) この環境マネジメント方針とコープしがの環境マネジメントの成果は、組合員と地域の人たちに公開し、行政や地域の諸団体と協力して、地球環境の保全に貢献します。

2008年3月11日 生活協同組合コープしが
理事長 西山 実

地球温暖化防止

「コープしがCO₂ (温室効果ガス) 削減 10 万人運動-2009」の取り組み



コープしがでは、持続可能な社会の実現に向けて、地球温暖化防止の取り組みをすすめています。

滋賀県の世帯数の約30% (14万人) がコープしがの組合員である組織の果たす役割を踏まえ、組合員が生協の事業を利用参加することで環境に関わり、組合員活動に参加することで環境保全に関わる「CO₂削減の10万人運動」として、環境配慮商品の利用、マイバックキャンペーン、1日エコライフなどに取り組んでいます。

リサイクルセンター 須戸センター長

家族みんなで1日エコライフ

家族みんなで1日エコライフは、毎年組合員が取組む大きな活動となって広がっています。



1日エコライフを通じて、CO₂を削減し、家族で環境について考える運動です。

6月と10月の年2回実施し、18,566人が参加し、CO₂を8,429kg削減することが出来ました。

環境商品の普及

環境配慮商品の普及活動を広報誌スパイラルで特集し、洗剤キャンペーンとして年2回組合員へサンプルを配布し、利用拡大を呼びかけています。

また共同購入では環境に配慮した農産物の利用が、農産部門の約25%を占めており、年間約6億円となっています。



環境商品：トイレトーパー



環境商品：環境こだわり米

マイバック持参キャンペーン

コープしがでは、「地球環境のためにできることはお買い物から考えよう」とマイバック持参運動に取り組んでいます。



コープぜびリサイクルBOX

1982年旧大津生協瀬田店 (現MC瀬田) のオープン時より「お買い物袋レジ5円運動」に取り組み、2009年度は全店舗で95%と非常に高い持参率となっています。

レジ袋代金は、店頭のリサイクルBOXの購入などにあてています。

CO₂ (温室効果ガス) 削減 10 万人運動 主な取組み

1日エコライフ (6月、10月)	5,125 家族 18,566 人が参加
環境配慮商品利用	農産物供給高 592 百万円
マイバックキャンペーン	お買い物袋持参率 95.2%
西の湖ヨシ刈り (2回)	27 名が参加
豊かな湖フォーラム	9 名が参加
みるエコおうみ プレ企画	28 名が登録
仕分け袋のリサイクル	回収率の向上 32.1%→35.3%
インターネット注文の向上	OCR注文書停止率 15.9%→20.2%
その他エリア・コープ委員会での環境学習会企画と参加	59 企画
	811 人が参加



キャンドルナイト&エコクッキング

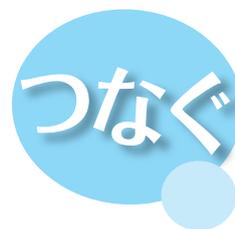


石けんづくり教室



牛乳パックの紙漉教室

持続可能な社会の実現に向けて 事業と活動を通じた環境保全活動



■ 西の湖の環境を守る「ヨシ刈り」

大津市から始まり全国に広まったといわれるヨシ刈りボランティア。刈り取りを行うことで、次の年には立派なヨシがとれ生態系により環境が保全されます。

2008年10月にラムサール条約湿地として琵琶湖最大の内湖「西の湖」が拡大登録されました。

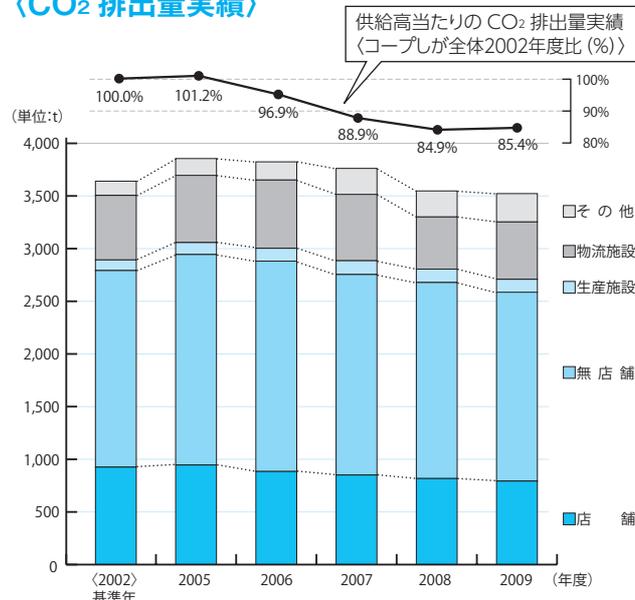


■ 地球温暖化防止自主行動計画の取組み

地球温暖化防止の有効な手段であるCO₂の排出抑制を、日本生協連の指針にもとづき、地球温暖化防止自主行動計画を策定し、コープしがの事業活動に伴うCO₂の排出量削減に取り組みました。

2002年度を基準年として、供給高1億円当たりのCO₂排出量で評価を行っています。2009年度は、14.0トン/億円で、2002年度対比85.4%に削減できました。

〈CO₂ 排出量実績〉



■ 環境事業積立金の活用

2007年度と2008年度の剰余金処分では、環境保全活動や環境にやさしい施設などを充実するための資金として、現在6千万円の積立金を行っています。

■ ペットボトルキャップ回収

社会福祉法人「いしづみの家共同作業所」を中心とする「ペットボトルリサイクル協議会 (PCR)」の取組に参加し、店舗で使用済みペットボトルキャップを回収し、共同作業所で洗浄しモップの柄などに再商品化しています。

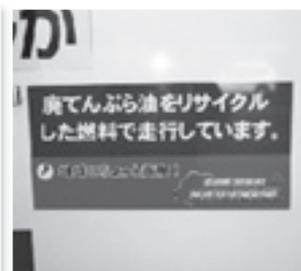


■ バイオ燃料リサイクル (BDF)

2008年3月より、コープぜぜの惣菜づくりで使用される植物油をバイオ燃料としてリサイクルを開始しました。

現在は、野洲本部の職員から回収した廃食油や、福祉ネットワークセンターゆめふうせん、日吉台ステーションでも回収を開始しました。

BDFを配合した軽油は、リサイクルセンターの回収車で実験使用をしています。



理念と運営体制

食の安全

地域貢献

組合員の活動

環境保全

事業内容

商品案内書や卵パック、 ペットボトルなどの再資源化 リサイクルの取り組み

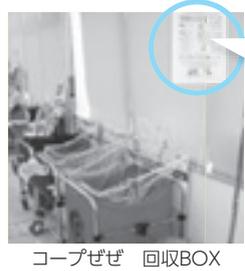


コープしがでは、環境マネジメント方針にもとづいて、持続可能な循環型社会を目指すため、事業や活動で排出する廃棄物を資源リサイクルすることにより、環境への負荷の軽減を図っています。

各事業所から排出、組合員から回収したリサイクル資源は、主にコープしがリサイクルセンターに集約され、圧縮処理などを行って、リサイクル業者に引き渡し、再生原料として活用されています。店舗の生ゴミなどの事業系廃棄物は、廃棄物処理業者によって肥料等へ再資源化を行っています。

リサイクルセンター 須戸センター長

リサイクルの実績は、組合員には広報誌「スパイラル」で情報提供し、店舗ではリサイクルBOXにリサイクル状況やお買い物袋持参率を掲示しています。



コープぜぜ 回収BOX

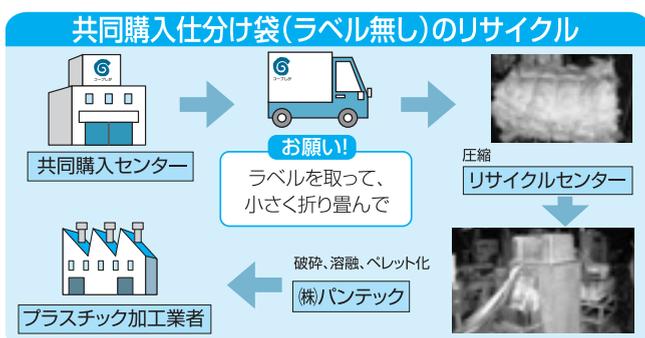
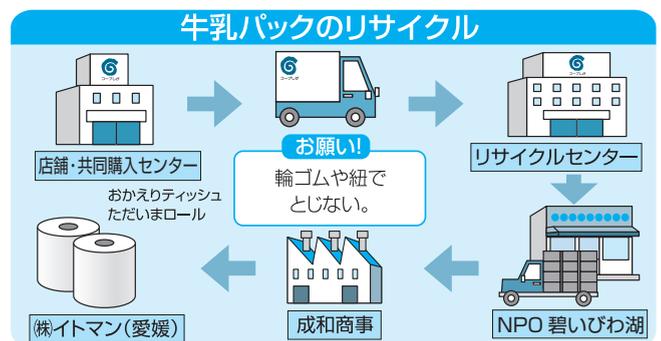
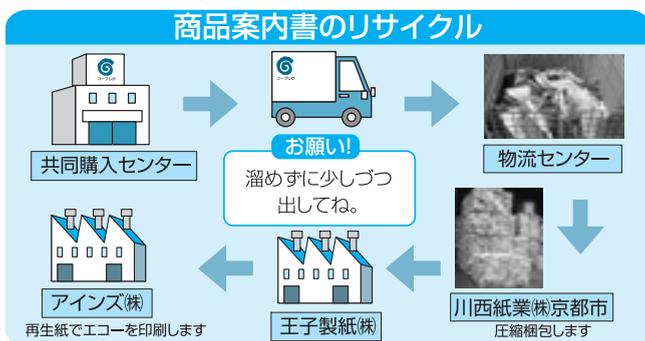


圧縮機



コープしがリサイクルセンター

リサイクルの流れ

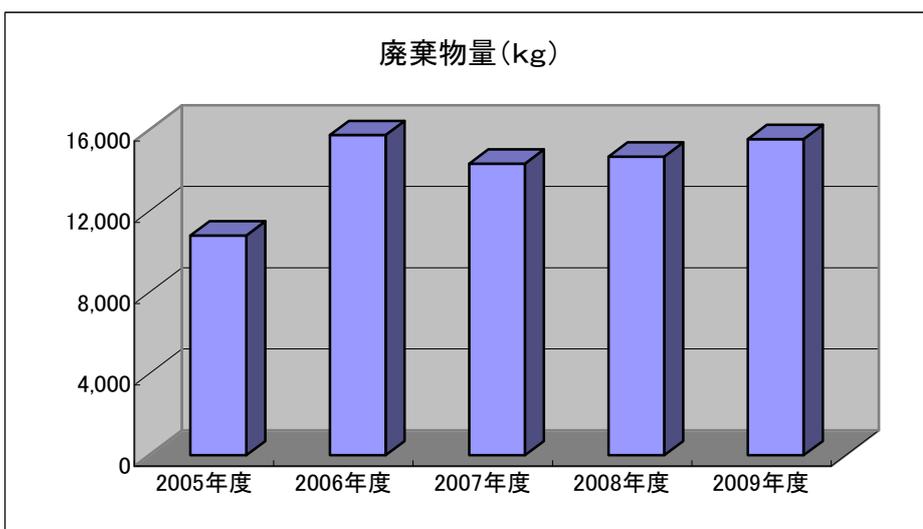
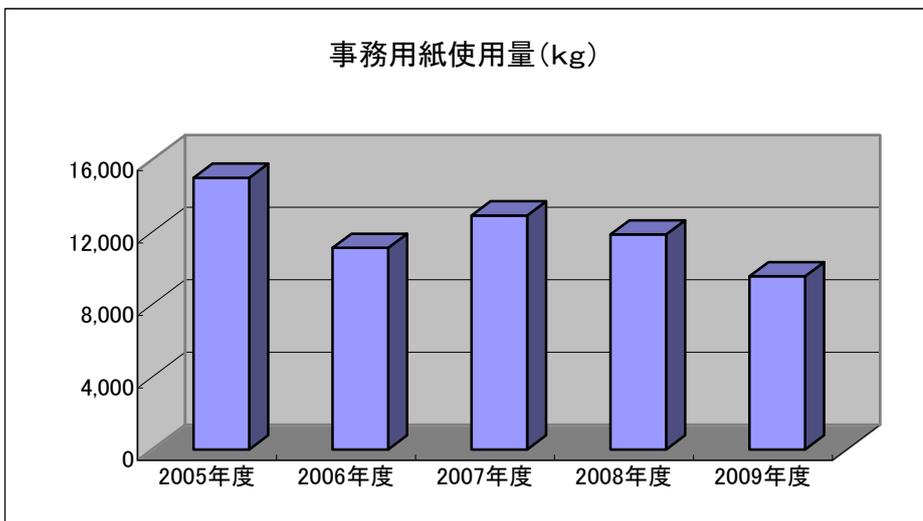
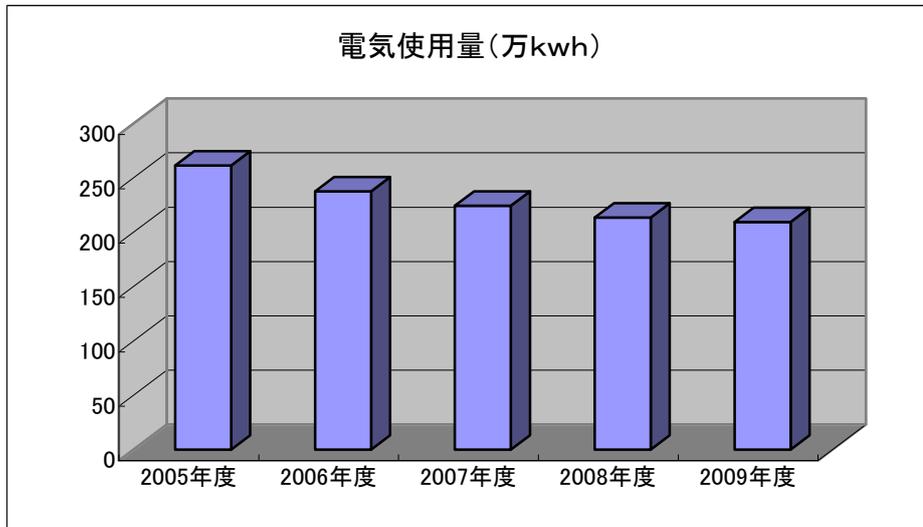


用語解説

- 【サーマルリサイクル】 廃プラスチックを固形燃料などに加工または破碎して直接燃焼させることによりエネルギーを回収する方法。そして、回収されたエネルギーを、発電や冷暖房及び工場などの熱源として利用すること。
- 【マテリアルリサイクル】 使用済みのプラスチックを細かく破碎したうえで溶かすなどして、もう一度プラスチック製品に再生し、利用すること。
- 【グリーン購入】 商品やサービスを購入する際に必要性をよく考え、価格や品質だけでなく、環境への負荷ができるだけ小さいものを優先的に購入すること。

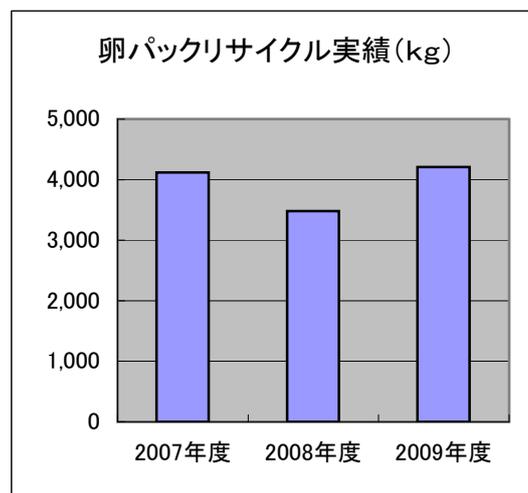
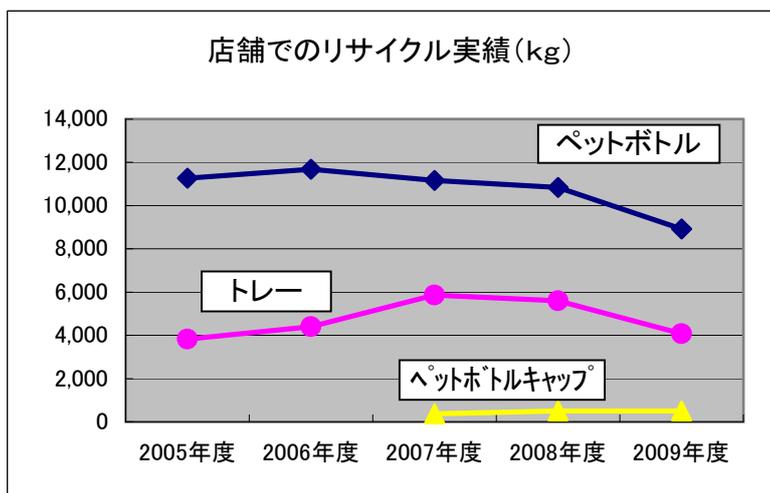
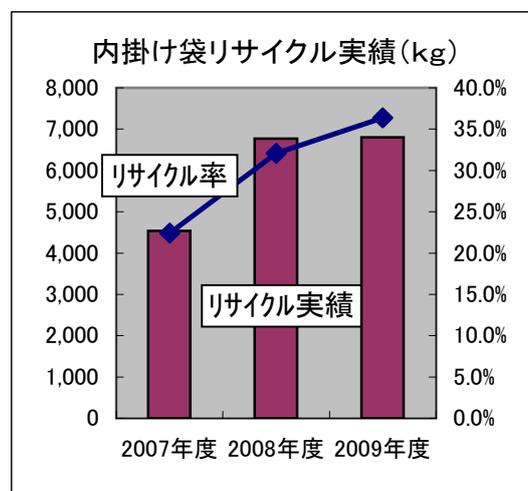
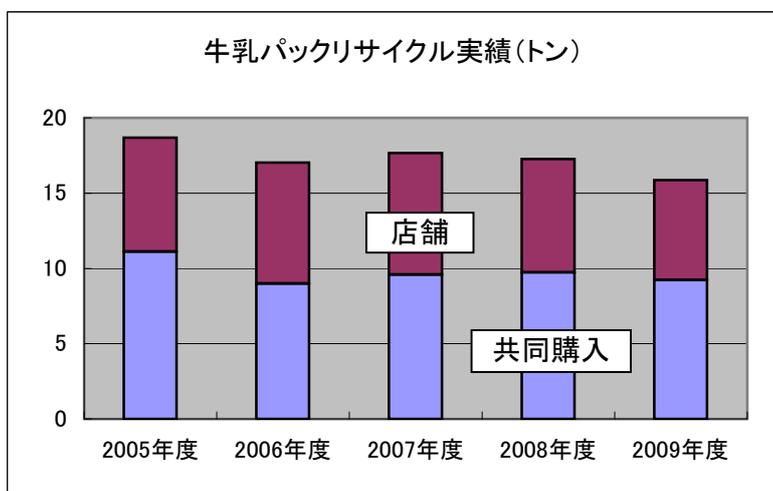
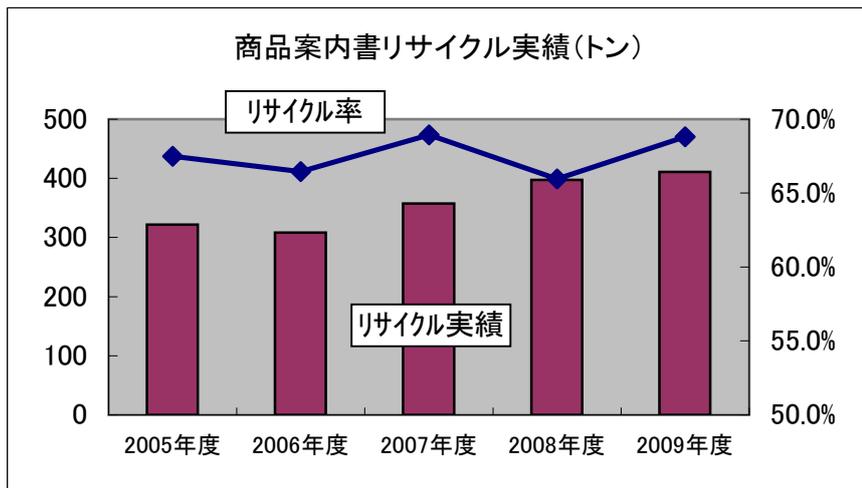
【大津地区事業所の環境実績】

(1) 資源・エネルギー・廃棄物削減の取り組み



2009年度の取り組み実績は、電気使用量が前年比98.0%、事務用紙使用量が前年比80.6%と削減が進みました。しかし廃棄物量は前年比105.9%と増加となりました。

(2)リサイクルの実績



コープしがでは各事業所から出る廃棄物の分別リサイクルと、組合員さんに供給した商品の包装材や商品案内書(カタログ)などの回収・リサイクルに取り組んでいます。

2009年度は、商品案内書の68.8%、内掛け袋の36.4%を回収し、再生原料として売却しました。卵パックは生協用に材質がペットのものを使用し、回収して卵パックに再生しています。店舗では、牛乳パック・ペットボトル・トレーなどの回収を行っています。

また、共同購入センターや店舗への納品時の梱包材、組合員さんから回収した再生に向かない内掛け袋などは、ペレット状に加工してもらい製紙メーカーなどの燃料として使われています。